

金沢市

「北陸の湯を守る」志を持ち
浴場のあらゆるメンテナンス・開発を担う

協和工業



DATA

協和工業株式会社

設立 1950 (昭和 25) 年 9 月 (個人創業は 1920 [大正 9] 年)
事業内容 浴場設備の設計、製造取付、販売
資本金 1,000 万円
従業員 10 名 ※ 2020 (令和 2) 年 5 月 1 日時点
本社住所 石川県金沢市金市町ホ 16
電話番号 076-258-1141
URL <https://kyowa-kogyo.org>





主力製品の温水缶ボイラー



リニューアルした攪拌装置式ろ過機



特許取得 ノズル詰まり防止ユニット



新製品 ステンレス製排水熱交換器

など公衆浴場の設備を行い、現在に至っています。

当社の主力商品は、浴場施設用のボイラー、ろ過機、熱交換器などの浴場設備機器であり、それらは全て社内で作上げ、社員が取り付けに行くという一貫工程で行っています。浴場という性質上、メーカーとして商品の耐性が重視されますので、腐食や摩耗した時のメンテナンスと修理も対応しています。

これほどまでに浴場施設に特化したのは、二代目が設立まもなくして銭湯用に外付けボイラーを製造したことが始まりです。他県にあったものを参考にして作った石川県内初のボイラーは注目を集め、瞬く間に地域の銭湯へ広がったそうです。

現在、当社が製作しているボイラーは「温水缶ボイラー」といって、圧力容器ではなく無圧温水缶です。取扱者の資格免許は不要で、また、燃焼装置によってA重油・廃油・おが屑・木屑・木質ペレットなど、様々な燃料に対応しており高効率であるところが、需要が生まれた要因でもあります。



協和工業株式会社・社屋の風景

☑「まちのポンプ屋さん」から「北陸の湯を守る」会社へ

大正9年、初代が個人事業としてポンプ修理をしており、その背を見て育った二代目が昭和25年に会社として設立しました。二代目の時は「まちのポンプ屋さん」的存在で、家庭のポンプから国鉄バスまで広く修理をしており、三代目として現社長が就任した昭和60年には、すでに浴場設備専門メーカーとして確立させていました。社長は先代の事業を継ぎ、市内外多くの銭湯や旅館、老人福祉施設

浴

場の給湯・ろ過などの付帯設備の製作と、浴場システムの開発——これらを一貫して行う北陸唯一の会社が協和工業だ。石川県は銭湯が伝統文化として根付いていることもあり、浴場施設に特化した業種は全国的にも珍しい。同社では浴場設備には欠かせない主力商品をはじめ、オリジナルマイクロバブルバスや塩素注入機ノズル詰まり防止ユニット、省エネシステムなど時代に合わせた製品開発も手がけている。主力商品の製造・取付だけでなく、配管工事やポンプ修理、シャワーの取付など浴場に関する設備について幅広く対応している。今回は同社の歴史と展望について代表取締役の川北英治氏、設計の松永充晃部長、総務の出口真理さんの3名に話を聞いた。

☑モノづくりの楽しさと醍醐味を感じていく仕事

属されています。全社員が協力しあって様々な案件に取り組みことを第一に、社員同士で自発的に技術や知識の共有を活発に行い、切磋琢磨しています。

時代が変わり、会社の存在意義も変わってくるでしょう。それだけに社員がより一丸となって仕事をしていくことが、これからの目標となります。平成初期と比べて全国的に銭湯の数が減ってきているのは否めませんが、大都市圏では銭湯文化への懐古から、銭湯を新たに開業したり、受け継ぐ人も増えてきているようです。また、ひそかなサウナブームもあり、銭湯文化が完全に途絶えてしまうことは無いでしょう。そして、全国的に見ても当社のような企業が少ないこともあり、これから未来の銭湯のためにも、当社の技術や製品を知ってもらいたいという思いがあります。今は北陸を営業エリアとしていますが、当社の製品は「浴場設備に共通する問題点をクリアにする」ものであり、全国の浴場施設の皆さまに喜んでいただける商品だと自信を持っています。まさに今、開発を進めてきた当社オリジナルの新型攪拌装置式ろ過機や、ステンレス製排水熱交換器は浴場施設の経費削減には大きな役割を持ち、銭湯が継続していくためには欠かせない商品であると自負しています。そのためにも全国対応の準備を整えているところです。

そして地域の銭湯未経験者に向けて、浴場設備会社ならではの独自視点で銭湯の良さを伝えたい。そのひとつとして、当社のHPでお客様の紹介や製品のこだわりなどを発信しています。昔からの常連さんが憩いの場として集う現在まで築いてきた銭湯文化は素敵ですが、銭湯を次世代に伝えるには、若者が銭湯へ気後れな



配管工事・シャワーの取付・ポンプ修理等
浴場に関する設備に幅広く対応



現場でのボイラー修理は被覆アーケ
溶接の技術が必要になる

☑真剣に対応・改善し、伸ばす心構えが 品質の工夫と進歩に

当社の特徴として挙げられるのは、直接お客さまに会い、声を聞いて、現場を見て、製品づくりや設備工事をしている点です。社員一人ひとりが現場の声を聞いて、その声を受け止めているため、「浴場設備の故障は銭湯側も入浴する側も機会損失になるから、修理は迅速かつ正確に」との想いで働いてくれています。その姿は大変頼もしい限りです。

主力商品のひとつであるボイラーは、取り扱いを間違えると大変な事故につながる可能性があるだけに、水漏れなどのトラブルにはいち早く早く対応しています。ボイラー更新にしても「内部の質の向上」を重視しています。パッと見は変わっていないかもしれませんが、実は中身にはものすごい改良がされているのです。それは設計長の松永を中心に「改善できることはとことん細かく突き詰めて考え、作り抜いてから自社製品をお届けしたい」との社員の熱意があつてこその実現です。

現在、約10名の社員が在籍し、設計・製造・工事と3部署に配



製造長 福田さん

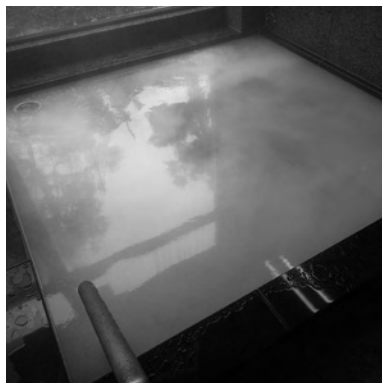
お互いが必要としあえる関係を大切にしていきたい

社員インタビュー 製造長 福田哲也さん

前職は全く畑違いの仕事をしており、浴場設備が何か分からない中で「設備の仕事をしたい!」という挑戦心だけで飛び込みました。入社後は工事で経験を積み、約7年後に製造部に志願し、異動しました。現場経験があるので、「私は製造の人間だ」と、自分で仕事の幅を決めつけることなく仕事をしたいと考え、工事ででの経験を活かしつつも、製造で必要な技術と知識は先輩に聞いたり講習に行くなどして、多方向から習得してきました。

ボイラーは一度設置すると、修理の際は工場へ引き揚げるのではなく、現場での修理となります。年数の経ったボイラーは錆びやスケール(水垢)が付着していて、溶接するには非常に条件が悪い状態ですから、耐候性のある被覆アーク溶接——通称「手棒」と呼ばれる溶接が必要となり、手棒技術があることが協和工業としても職人としても大きな強みになっています。

正直、ボイラーもろ過機も高価なので、少しでも長持ちする製品を提供することで、浴場施設を長く営業していただきたい。そのため今の製品に満足することなく、改良を重ねていくことで「協和さんの製品はしっかりしている」と信頼いただけるよう努力しています。お互いが信頼し、必要としあえる関係は何よりも



独自開発の協和式マイクロバブルバス。構造の簡略化を図り、メンテナンス部を極力減らしたオリジナル製品

く行けるよう、今の時代に合う銭湯も考えて提案して共に作ってきたい。そのためには若い皆さんの感性が必要なのです。

当社は経験の有無よりも、挑戦意欲がある人を歓迎しています。「お風呂のことじゃないけど、協和工業なら作れるかと思って」といったご相談にお応えして、和菓子製の製造機械や個人用のガラス焼釜をお受けすることもありますし、今の時代では作られなくなった部品や商品も当社で作れないかと試行を重ねて作り上げるなど、会社自身もチャレンジ精神があります。

始めは簡単なものを先輩と一緒に担当しながら、当社が手がける仕事の種類を見て、知ってください。その上で、自分に何ができるかを探してみてください。設備全体に関しても浴場のシステムを熟知している当社だからこそ、提案・修理・改善していけることがある。ひとつの現場をやり終えた時の達成感、自分にしかできないことを感じられる責任感が仕事のやりがいにつながっています。私たちは実際にお客さまに会って「ありがとう」という言葉を直接かけてもらえるたびに「幸せな職業に就いている」と喜びを感じています。「自分が必要とされる仕事」を一緒に実感していきたいでしょう。

大切です。だからこそ、私を含む製造部は、作るたびにさらなる「完璧」を目指し続けています。